

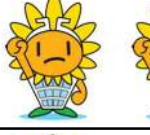
■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

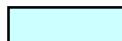
建物名称	トヨタカローラ博多株式会社 則松店	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	4.5 /5		よい 
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v2.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.0
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 2.8	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.3
一部躯体材料にリサイクル材を用いている	ゆとりのある階高とした。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 4.5
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア 5	LR2/ 1.1 節水 スコア 4
ライフサイクルCO2が一般的な建物に比べやや低い	節水コマ、省水型機器などの節水型の設備を多く採用している。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 1
特別な配慮は行っていない	全面道路(国道3号線)沿いに植栽を計画し、周辺のまちなみ配慮した。
4 高齢社会への対応	スコア平均 1.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 1	建物の外皮性能(BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.98
障害者用便所、駐車場等設置	建物の一次エネルギー消費量(BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅:— 0.86 外構緑化指數 1.3 % 建物緑化指數 0 %



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観																									
建物名称	トヨタカローラ博多株式会社 則松店新築工事	階数	地上2階																								
建設地	福岡県北九州市八幡西区則松5丁目1864-7 他4筆	構造	S造																								
用途地域	準工業地域、防火地域指定無し	平均居住人員	35 人																								
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年																								
建物用途	物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価																								
竣工年	2018年10月 予定	評価の実施日	2017年12月27日																								
敷地面積	4,421 m <sup>2</sup>	作成者	東九州設計工務㈱																								
建築面積	1,879 m <sup>2</sup>	確認日	2018年1月9日																								
延床面積	2,054 m <sup>2</sup>	確認者																									
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)																									
<p>BEE = 0.8 ★★★★</p> <p>S: ★100% 3.0 A 1.5 B+ 0.8 B- C+ C: ★</p>		<p>BEE = 1.0 ★★★★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr><td>①参照値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>②建築物の取組み</td><td>14%</td></tr> <tr><td>③上記+②以外の</td><td>14%</td></tr> <tr><td>④上記+</td><td>14%</td></tr> </table> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもので</p>		①参照値	100%	②建築物の取組み	14%	③上記+②以外の	14%	④上記+	14%																
①参照値	100%																										
②建築物の取組み	14%																										
③上記+②以外の	14%																										
④上記+	14%																										
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																											
2-4 中項目の評価(バーチャート)		<p>Q のスコア = 2.5</p> <table border="1"> <tr><td>Q1 室内環境</td><td>Q1のスコア = 2.2</td></tr> <tr><td>音環境</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>温熱環境</td><td>1.4</td></tr> <tr><td>光・視環境</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>空気質環境</td><td>3.3</td></tr> </table> <p>Q2 サービス性能</p> <table border="1"> <tr><td>Q2のスコア = 3.2</td></tr> <tr><td>機能性</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>耐用性</td><td>3.3</td></tr> <tr><td>対応性</td><td>3.3</td></tr> </table> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <table border="1"> <tr><td>Q3のスコア = 2.2</td></tr> <tr><td>生物環境</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>まちなみ</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>地域性・</td><td>2.5</td></tr> </table>		Q1 室内環境	Q1のスコア = 2.2	音環境	2.2	温熱環境	1.4	光・視環境	2.4	空気質環境	3.3	Q2のスコア = 3.2	機能性	3.0	耐用性	3.3	対応性	3.3	Q3のスコア = 2.2	生物環境	1.0	まちなみ	3.0	地域性・	2.5
Q1 室内環境	Q1のスコア = 2.2																										
音環境	2.2																										
温熱環境	1.4																										
光・視環境	2.4																										
空気質環境	3.3																										
Q2のスコア = 3.2																											
機能性	3.0																										
耐用性	3.3																										
対応性	3.3																										
Q3のスコア = 2.2																											
生物環境	1.0																										
まちなみ	3.0																										
地域性・	2.5																										
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.3</p> <table border="1"> <tr><td>建物外皮の</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>自然エネ</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>設備システ</td><td>4.0</td></tr> <tr><td>効率的</td><td>2.5</td></tr> </table>		建物外皮の	2.0	自然エネ	3.0	設備システ	4.0	効率的	2.5	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.9</p> <table border="1"> <tr><td>水資源</td><td>3.4</td></tr> <tr><td>非再生材料の</td><td>2.8</td></tr> <tr><td>汚染物質</td><td>2.7</td></tr> </table> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p> <table border="1"> <tr><td>地球温暖化</td><td>5.0</td></tr> <tr><td>地域環境</td><td>2.1</td></tr> <tr><td>周辺環境</td><td>3.0</td></tr> </table>		水資源	3.4	非再生材料の	2.8	汚染物質	2.7	地球温暖化	5.0	地域環境	2.1	周辺環境	3.0				
建物外皮の	2.0																										
自然エネ	3.0																										
設備システ	4.0																										
効率的	2.5																										
水資源	3.4																										
非再生材料の	2.8																										
汚染物質	2.7																										
地球温暖化	5.0																										
地域環境	2.1																										
周辺環境	3.0																										
3 設計上の配慮事項		その他																									
<p>総合</p> <p>周辺の環境に配慮したショールーム及びサービス工場となるよう考慮した。建物内部においては、階高や天井高さにゆとりを持ち、設備等のメンテナンスを考慮した計画とした。</p>		<p>特になし</p>																									
<p>Q1 室内環境</p> <p>外部に面した部分をすべてガラス張りとしており、開放感のある、自然光を活かしたショールームとしている。ショールームから外部空間であるテラスを介して喫煙室へと行く動線としており、非喫煙者に対して配慮している。</p>		<p>Q2 サービス性能</p> <p>事務室の床はOAフロアとしており、将来のレイアウト変更に対応できるよう配慮している。</p>																									
<p>LR1 エネルギー</p> <p>照明器具にはLED器具を採用し、省エネルギーに配慮した計画としている。</p>		<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>全面道路(国道3号線)沿いに植栽を計画し、周辺のまちなみに対応した。</p>																									
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマ、省水型機器などの節水型の設備を多く採用している。</p>		<p>LR3 敷地外環境</p> <p>周辺住民への配慮として、バス利用者が利用できるベンチスペースを設置した。</p>																									

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
**トヨタカローラ博多株式会社 則松店新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 欄に数値またはコメントを記入  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>							
<b>Q1 室内環境</b>			0.35		-		<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>			2.2	0.15			<b>2.2</b>
<b>1.1 騒音</b>			1.0	0.40			
<b>1.2 遮音</b>			3.0	0.40			
1 開口部遮音性能			3.0	1.00			
2 界壁遮音性能			-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-			
<b>1.3 吸音</b>			3.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>			1.4	0.35			<b>1.4</b>
<b>2.1 室温制御</b>			1.8	0.50			
1 室温			2.0	0.43			
2 外皮性能			3.0	0.21			
3 ゾーン別制御性			1.0	0.36			
<b>2.2 湿度制御</b>			1.0	0.20			
<b>2.3 空調方式</b>			1.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>			2.4	0.25			<b>2.4</b>
<b>3.1 昼光利用</b>			2.4	0.40			
1 昼光率			1.0	0.29			
2 方位別開口			3.0	-			
3 昼光利用設備			3.0	0.71			
<b>3.2 グレア対策</b>			1.0	0.14			
1 昼光制御			1.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>			2.0	0.07			
<b>3.4 照明制御</b>			3.0	0.38			
<b>4 空気質環境</b>			3.3	0.25			<b>3.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			4.0	0.50			
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に使用している(建具を除く)	4.0	1.00			
<b>4.2 換気</b>			2.5	0.30			
1 換気量		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上を満たしている	3.0	0.42			
2 自然換気性能			5.0	0.17			
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.42			
<b>4.3 運用管理</b>			3.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視		建築物衛生法の対象建物となっていないため、評価対象外	-	-			
2 噴煙の制御			3.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>			-	0.30			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>			3.0	0.40			<b>3.0</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			1.6	0.40			
1 広さ・収納性		工場のストール1ヶ所あたり30m <sup>2</sup>	5.0	0.16			
2 高度情報通信設備対応			1.0	0.16			
3 パリアフリー計画			1.0	0.68			
<b>1.2 心理性・快適性</b>			4.3	0.30			
1 広さ感・景観		工場…4.8m、売場…4.5m、スタッフルーム…3.0m	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		工場787.26m <sup>2</sup> に45.47m <sup>2</sup> の休憩室、売場243.50m <sup>2</sup> に47.06m <sup>2</sup> のレストス	5.0	0.33			
3 内装計画			3.0	0.33			
<b>1.3 維持管理</b>			3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		売場やテラス・アプローチは、汚れに強く維持管理し易い磁器質タイル張り	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>			3.3	0.30			<b>3.3</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			3.8	0.50			
1 耐震性		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有している	4.0	0.80			
2 免震・制振性能			3.0	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			3.0	0.30			
1 車体材料の耐用年数			3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20			

<b>2.4 信頼性</b>	1 空調・換気設備	2.6	0.20		-	
	2 給排水・衛生設備	3.0	0.20		-	
	3 電気設備	3.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法	1.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備	3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.3</b>	0.30		-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.2</b>	0.30		-	
1 階高のゆとり	階高…1階 6.4m、2F 4.0m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.35</b>	-	-	<b>2.2</b>
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.5</b>	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.0	0.10		-	2.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.11		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	BEI 非住宅 0.86 住宅(専有部) 0.83	<b>4.0</b>	0.56		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)	BEI=0.86	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)			-		-	
<b>4 効率的運用</b>		<b>2.5</b>	0.22		-	2.5
集合住宅以外の評価		<b>2.5</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		2.0	0.50		-	
集合住宅の評価			-		-	
4.1 モニタリング			-		-	
4.2 運用管理体制			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20		-	3.4
1.1 節水	節水コマ、省水型機器などを設けている	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>2.8</b>	0.60		-	2.8
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシャラン	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>2.7</b>	0.20		-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>2.6</b>	0.70		-	
1 消火剤		2.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		-	
3 冷媒		3.0	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2が一般的な建物に比べやや低い	<b>5.0</b>	0.33		-	5.0
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>2.1</b>	0.33		-	2.1
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	行政指導がないため、評価対象外	<b>3.6</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	-		-	
2 污水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースを確保している	5.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音	規制対象建物以外のため、評価対象外	3.0	0.50		-	
2 振動		3.0	0.50		-	
3 悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		<b>3.0</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2 墓光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	